

令和8年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		グループ目標
				具体的な方策	評価の観点	
1	教育課程 学習指導	・中高一貫教育の特色を活かした教育課程を策定し、知的好奇心を引き出し、高い学力と志を身に付けさせる。 ・探究学習を中心にカリキュラム・マネジメントを展開し、「自ら考え・調べる」姿勢を育成する。 ・主体的・対話的で深い学びを重点研究し、言語活動の充実を図りながら科学的根拠に基づく論理的思考力、及びSTEAM教育等を通して表現力を育成する。 ・グローバル社会に求められる英語運用能力向上を目指すとともに、様々な価値観を持つ人々との相互理解を推進する。	①思考力・判断力・表現力を高める振り返りシートと評価方法や評価の手立てを整理する。また、各教科で中高一貫教育の6年間の教育課程を整理する。 ②英語運用能力の更なる向上を目指す。 ③学校外との交流を推進する。	①「思考力・判断力・表現力の育成」および6年間を見通した「指導と評価の一体化」を共通テーマとして研究を実践する。 ②英検受験、合格率とGTECスコア、および共通テスト平均点を過去のデータと検証し、現状分析と目標を再設定する。 ③特別土曜講座において、他校生の参加を呼びかけたり、生徒からの提案や意見も吸い上げたりする。	①研究成果と教科への還元はどうか。単元に係る振り返りを実施し、生徒に6年間の展望を持った学習姿勢を持たせることができたか。 ②データの推移と分析結果はどうか。 ③特別土曜講座への参加者数や参加校数に変化は見られたか。また、生徒からの提案がどのくらいあったか。	○「教員プチ探究」の取組みを活かし、教職員が指導と評価の一体化を深く理解し、生徒の主体的な学習態度を育むとともに生徒の思考力・判断力・表現力の更なる向上を目指す。 ○「指導と評価の一体化」の視点に重きを置いた教科指導をより一層充実させるとともに、各教科の育成する資質・能力を明確化し、本校における6年間の系統立てた教科指導を展開する。 ○積極的に自ら発信する姿勢を育成するとともに、校外での活動、交流研修等を周知し、日頃の学習の成果を自ら確認する機会を設けさせる。自己理解を深めながら他者との交流の中で実践力を伸ばす。 ○英語運用能力以前の「自らコミュニケーションを求める姿勢」を育む機会を生徒に提供する ○特別土曜講座を「School Cross」のプラットフォームとして活用し、生徒をコンフォートゾーンからストレッチゾーンに連れ出し、自己理解と他者理解を促進する。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	・自主自律を推奨し、目標達成を諦めない精神力と規範意識、思いやりをもって下級生を指導するリーダー意識を醸成する。 ・6年間を安全かつ安心して過ごせるよう、安全教育を通じて支援・指導を行う。	①「あいさつ」「時間を守る」「整理整頓」の3つを、生徒に自主的に取り組ませる。 ②事件や事故、いじめ等を未然に防ぐ。カウンセリングを積極的に活用する。	①「あいさつ」「時間を守る」「整理整頓」の3つの柱において、生徒による自主的取組を促す。 ②新たに月間指導目標を設定し、全教職員で指導する。カウンセリングを公欠扱いとする。	①生徒一人ひとりが、3つの柱に対して自主的に取り組めたか。 ②生徒の様子と生徒の評価はどうか。カウンセリングを受けた生徒の経過はどうか。	○生徒自身が委員会活動や行事等のあらゆる場面において、「あいさつ」「時間を守る」「整理整頓」の3つの柱に対する意識が高められるように、場と機会を設定する。 ○教育相談センター会議の充実化を進め、初動から組織で動き問題の重大化を防ぐ体制を確立する。 ○月間指導目標では、「挨拶」「時間を守る」「整理整頓」の三つの柱を定着させるため重点項目を月毎に設定し、全職員で具体的な方法を共有し指導にあたる。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		グループ目標
				具体的な方策	評価の観点	
3	進路指導・支援	・第一志望を諦めない進路指導を徹底するとともに、5教科受験での国公立大を推奨し、60名以上の現役合格者を目指す。また、国公立大や難関大における現役合格率75%を目指した段階的・体系的な支援・指導を行う。 ・キャリアパスポートを活用しながら、高い志を維持させるため、実践・経験値を向上させ、自己変容のプロセスを重視したキャリアプランニングを指導する。	① 第一志望を諦めない進路指導を推進する。 ② 主体的取組としてのコンテスト参加を引き続き促す。	① 進路実績の分析と指導体制を検証する。 ② 検定やコンテスト参加数調査を継続して行う。	① 第一志望の進路実現を達成できたか。 ② 参加者数はどのように推移したか。	○生徒の進路希望の実現に向け、学校としての体系的な進路支援体制の構築を目指す。 ○校外での講座やコンテストの参加を主体的取組の機会として情報提供に努める。
4	地域等との協働	・地域交流から社会貢献意識を醸成する。 ・神奈川県を代表する中高一貫校としての魅力を発信し、6年の学びの意欲を引き出す広報、開かれた学校づくりを推進する。	① 校外活動を促すとともに、効果的な防災訓練を実施する。 ② 学校のミッションを踏まえながら、受検者の視点を取り入れた学校案内を作成する。	① 相模原南消防署と連携した防災訓練を計画、実施する。 ② 生徒のアイデアを活かした学校案内を作成し、説明会を企画する。	① 生徒の社会奉仕、社会貢献意識と防災意識は向上したか。 ② どのようなアイデアを活かすことができたか。	○学年全体で計画的な地域貢献活動を行う。 ○職員や生徒にとって、より効果的な防災訓練等の方法を模索し、学校全体の防災意識を向上させる。 ○学校説明会や受検生対象の学校見学において、本校が求める生徒像を発信しつつ、入学後のミスマッチを減らしていく。
5	学校管理 学校運営	・業務を組織的に可視化させ、効率向上から働き方改革を推進するとともに、OJTを意識しながら職員相互の能力向上を図る。 ・地域から信頼されるため、職員一人ひとりが県職員としての自覚を持ち、不祥事防止に全力で取り組む。	① 帰宅しやすい環境づくりの継続とスクラップ提案等により、業務削減に取り組む。 ② 同僚性の醸成に継続的に取り組み、不祥事防止の意識を高める。	① 試験前に会議を設定しないとともに、採点システムの運用および「スクラップ提案書」を継続して実施する。 ② 教員による不祥事防止研修を継続し、特に成績処理に関する事故防止に努める。コミュニケーションの取りやすい職場づくりを重点目標とする。	① 時間外勤務時間や年休取得数がどのように変化したか。 ② 研修会は実施できたか。また職員同士のコミュニケーションが増えたか。	○年休取得の推進、帰宅時間の促し等、意識改革の手立てを実践する。 ○職員の不祥事防止には「同僚性の醸成」「風通しの良い職場創り」が不可欠ととらえ、不祥事防止研修会を企画・実施する。 ○職員同士のコミュニケーションを密に行い、些細な疑問等も情報共有できる環境を醸成し、成績処理等に関する事故の未然防止を図る。